資料２

「食の安全安心と食育審議会　令和４年度 食育推進部会」報告

食の安全安心と食育審議会規則第７条に基づく「食育推進部会」の開催状況について、下記のとおり報告します。

１　開催日時・場所

日時：令和４年１１月２５日（金）１０：００～１２：００
場所：ひょうご女性交流館　５０１会議室

２　部会出席委員　　８名（部会長　永井委員）

【関係課】男女青少年課、生活安全課、生活衛生課、流通戦略課、教育課、体育保健課、健康増進課

３　議事

（１）食育推進計画（第４次）を踏まえた食育推進について

食育推進計画（第４次）の取り組みの柱に沿った施策の進捗状況や、指標に関関する調査結果、HYOGO アサ@プロジェクトの概要等について説明し、委員よりご意見をいただいた。

【主なご意見】○委員意見、→関係課回答

ア　柱１：子どもとその親、若い世代を中心とした健全な食生活の実践

（ア）学校における食育推進

○　担任と栄養教諭の組織・連携体制に関して、兵庫県の課題は何か。

→　学校教育活動全体を通じて、組織的・計画的・継続的に食育を推進しているが、栄養教諭の配置有無が校内の食育活動の定着に影響を及ぼしていることも事実である。小学校では、給食を生きた教材として使用してり、食育も浸透してきた。

○　市の給食献立作成委員会には、PTA 協議会代表も出席しており、栄養士と検討している。子どもだけではなく保護者への食育アプローチも必要だと思う。小学校までは、給食試食会もあり、食育活動が目に見えやすいが、中学校になると、給食提供があっても、学校と保護者の距離が広がったように思う。

○　小学校・中学校・高校と切れ目のない食育推進が進むとよい。

○　栄養教諭だけが食育をするのではなく、小学校、中学校の全教育活動の中で全ての職員が食育の視点で授業構成を考えることができれば、横断的な食育が進む。あらゆる教科と連動した食育ができるとよい。

○　文部科学省の食育調査官の講演の中で、「食事が大事ということだけではなく、食は楽しいということを教えて欲しい。地域の食を知ることだけではなく、地域の食を好きになる子どもを育てて欲しい。」という言葉が印象的であった。

→　学校において食育を進めるためには、家庭や地域の連携が重要である。教育委員会では、学校全体で食育を進めるための「食育ハンドブック」を小学校版に加え、中学校版も作成している。今後、さらに研修などを通じて、校内での活用を促し、中学校での食育も進めていく。

（イ）若い人へのアプローチ

○　いずみ会では、高校生を対象とした料理教室を開催する時には、近所の直売所でのお買い物指導もしている。野菜を使ったレシピ集も作成し、ＪＡや直売所に配架していただくとともに、子ども食堂のメニューにも使っていただいている。

○　栄養士会では、大学生への取り組みとして、SNS を活用して朝食摂取に関する情報提供をしている。若い人へは情報発信の方法に工夫が必要だと考える。

○　大学生には、授業のたびに、「朝ごはんを食べてきたか。」と尋ね、授業中に朝ごはんを食べてもよいこととしている。授業中に朝食を食べていた学生も徐々に減ってきており、食育に興味をもっている学生も増えている。

（ウ）家庭と連携した食育

○　県では子ども食堂開設時の立ち上げ経費を助成されているが、その後の運営に関するネットワークや運営者連絡会などの支援はあるのか。

→　過去に子ども食堂代表者のネットワーク会議で食育や食品衛生にかかる情報提供を行ったことはある。

→　「子ども食堂」は、運営収支及びスタッフの確保を含めて、継続的な運営を目指して開設されていると認識しており、運営については、助成等を基本的なベースにすると継続は難しいと認識している。

　しかしながら、突発的な事案である物価高騰により運営に支障が出るのを防ぐことは必要であると考えていることから、R4.6 月～R5 年 3 月末まで物価高騰分を助成する事業を行っている。

○　「ふるさとひょうご寄付金」について、返礼品が出ない条件であれば、兵庫県民は寄付できるのか。この寄付ができれば、子ども食堂の運営部分にかかる資金調達ができるのではないか。

→　兵庫県民も寄付は可能である（返礼品は対象外）。

　R1～R4.12 月までの「子ども食堂応援プロジェクト」に対する、ふるさとひょうご寄付金のうち約 70%（件数ベース）は兵庫県民からの寄付である。

イ　柱２：健康寿命の延伸と健やかな暮らしを支える食育活動の推進

○　遊離糖類(※)の摂取過多とならないような取り組みも進めてはどうか。

　遊離糖類については、国の方で栄養プロファイリングの作業も進んでおり、世界的にもフロントオブパッケージの動きもある。例えば、遊離糖類とか、脂肪酸や食塩などを高濃度に含む食品については、食品のパッケージの後ろではなく食品の前面に表示するなど、消費者にとって分かりやすい形で表示することに関しても研究が進んでおり、国の動向を注視していただきたい。

（※）遊離糖類とは

　単糖類(ブドウ糖・果糖等）及び二糖類(しょ糖・食卓砂糖等）のことで、人が食品・飲料に添加する糖類のほか、蜂蜜・ｼﾛｯﾌﾟ・果汁・濃縮果汁中に天然に存在しているもの

○　栄養士会では、栄養ケア・ステーションを中心に、フレイル予防を展開しているが、人材の地域偏在が課題である。県下の潜在的な管理栄養士、栄養士を発掘し、いかに食育に取り組んでもらえるか、会員増にも取り組みたい。

ウ　柱３：持続可能な食を支える食育活動の推進

○　学校給食を通じた地場産品の活用に関して、県産県消の理解促進にかかる取り組みへの県漁連の関わりはどれくらいか。

→　例えば、明石の蛸を学校給食で食したり、食育の講義に使ったり、加工品の調達において県漁連には協力をいただいている。

学校給食における県産消費割合は、現在約 30%程度であるが、令和 6 年度までには 35%まで引き上げるという目標がある。

エ　柱４：食育推進のための体制整備

○　継続的な人材育成として、管理栄養士は資格をとった後も情報をアップデートし、最新の情報や知識を持っていただきたい。

○　栄養士会では、生涯教育制度や会員研修の充実を図り、幅広く知識を持てる機会の拡充に努めている。

○　これまで管理栄養士免許は 26 万人に交付されている。直近の国税調査では就業している管理栄養士・栄養士は 11 万人であることから、有資格者で在宅の方への再教育も重要である。管理栄養士免許は更新制ではないので、卒業後も勉強し、地域で活躍いただくことも大切であり、リカレント教育の充実も求められている。

２　ＨＹＯＧＯアサ@プロジェクトについて

○　ＰＴＡ協議会のホームページでもリンクを貼りたい。食べることは生きること、子どもたちの１日の活動も原点が朝にあることを保護者の方に少しでも興味をもってもらえるよう普及啓発したい。。

○　プロジェクトの趣旨に賛同する企業や団体は民間の企業でないとだめなのか。非営利の団体でもよいのか。また、アサ@プロジェクトに賛同すれば、県から補助金は出るのか。

→　同プロジェクトは令和４年９月中旬にスタートしたばかり。現時点の参画メンバーは、県と地域包括連携協定を締結している企業が中心であるが、今後は、連携できる企業や民間団体を増やしていきたいと思っている。

公民連携として、プロジェクトを進めており、企業にとっても地域振興、地域貢献という点から連携協働をお願いしている。補助金制度は用意していない。

○味の素作成の朝食レシピ集の表紙写真のおにぎりには、海苔を巻いて欲しい。

○著名人であるとか、有名なインフルエンサーの県民に参加いただき、この取り組みがさらに広がることを期待する。

３　ひょうご食育月間の取り組み報告

兵庫県民農林漁業祭（令和 4 年 10 月 22 日～23 日 in 明石公園）において、食育関連ブースの来場者へアンケートを実施した。

アンケートは、食育推進計画（第４次）のキャッチフレーズ「食で育む　元気なひょうご“実践の「わ」を広げよう”」に関して、持続可能な食に必要な、「人の輪（わ)、和食文化の和（わ)、環境の環（わ)」の３つの「わ」を支える食育実践のうち、「あなたがやってみたい食育活動はなあに？」のボードを用意し、最も関心がある「わ」にシールを貼ってもらった。「３つの「わ」」に貼られたシールは、ほぼ同数であったが、県民が最も関心を持ったのは「環境の環（わ)」であった。

〔参考〕「３つの「わ」」に関して、委員からの意見は次のとおり。（ご意見をいただいた順に記載）

（田中委員：兵庫県漁業組合連合会　常務）
　和食のところに貼りたいところですけども、「環境の環」にします。食品ロスに加えて、私たちは海の環境のところに疑問がいきます。先日の海づくり大会で出た兵庫県のお弁当がとても評価が高くて、水産関係者からも好評をいただきました。兵庫県の食材は海も山もありとても豊富です。改めてこれから育っていくお子さん達に知っていただいて、誇れる兵庫県だと教育の場でもやっていただけたらと思います。

（土井委員：公募委員　会社役員）
　「人の輪」を大事にしたいと個人的には考えました。自分自身が食育に興味を持ち始めたきっかけでもあったのが、好きな人と食卓を囲んでご飯を食べることの楽しさに気づけたり、そこで自分が救われたという経験があるので、その大切さをいうところも食育を通して伝えていきたいなと思っているので、人の輪にしました。

（芦田委員：神戸大学大学院農学研究科教授）
　「環境の環」にします。やはり食料自給率が低い日本において、どうするかということを考えないといけないです。第４次食育推進計画の中にある農林水産マップのように兵庫県は農林水産業に長けた県になりうるはずです。世界的に過去の歴史をみてみると、農林水産業が発展しないところは成長がなく、今、先進国でこれだけ食品自給率が低いのは日本だけですから、それを兵庫県で打破していくという意味で選びました。

（橋本委員：公益社団法人兵庫県栄養士会会長）
　環境の環もとても大事なことだと思いますけど、私は「人の輪」に入れたいと思います。環境問題であっても、和食のことであっても、人と食事をする中でそういう話題が出て、それが食育に繋がっていくのだと思いますので、そこが１番の原点かなと思っております。

（山下委員：兵庫県いずみ会 登里会長の代理出席）
　私は「環境の環」です。今、明石の蛸が全然とれなくなっていることが気になっています。たこ飯を作る蛸が非常に高くなっていたり、手にも入らなくなっています。海が綺麗すぎても、汚れていてもいけないということで気になります。

（竹内委員：兵庫県 PTA 協議会会長）
　非常に悩みましたが「人の輪」です。この絵手紙コンクールもご飯を食べている時の顔がみんな笑顔になっています。やはりそこが原点で、このご飯がどうやって作られているのか、この食材がどうやって作られているのか、というような会話が食卓に弾むと、環境の環というところにも繋がり、個人的なことですけど、私はお魚が大好きで、海のことにも目を向けられて、和食も考えられるのかなと思います。住んでいるところが姫路市の山間部なのですが、海が豊かになるためには山が豊かでないと川の水は山から流れていきますので、川を大事にする、山を大事にすることで、海が豊かになり海の生き物たちも豊富になるのではないかなと思っているので、全てに目を向けて繋がるのが、まずは人かなと思いました。

（水野委員：兵庫県小学校長会　副会長）
　私は小学校に勤めています。個人的な意見ではなく仕事の立場から考えると、「和食文化の和」と思います。私は「食べるのが大好き校長だ」と発信していると、子どもたちが休み時間に色々話をしに来てくれます。給食の出汁は昆布とカツオでとり、みそ汁の出汁は煮干しでとり、私でも家ではそんな食材を使ってないようなものを食べさてもらっています。
　子どもたちに「朝ご飯何食べた？」と聞きますと、「今日はおにぎりやってん。めちゃ美味しかってん。」、「朝からお母さんがおにぎり握って、焼いてくれたんやで。」「レンチンやで。」など、そういう話をしてくれます。バランスよく食事を摂っている子どももいるとは思いますが、「菓子パンと牛乳やった。」「プリンとカステラだった。」などの食事も多く、それを子どもたちは美味しい、楽しんでいるという現状を聞くと、「給食だけでも頑張らないといけない」と思うのです。保護者への啓発とか、もっともっと和食のことを伝えていかないといけないと考えています。小学校の６年間と中学校の３年間の給食で、子どもたちが味覚を覚えてくれていたらいいな・・とそんなふうに思いまして和食の和を選びました。

（永井部会長：兵庫県立大学教授）
　私は「人の輪」に１票を入れさせていただきます。やはり人が基本かなということと、学校では黙食ということで、食べることの楽しさが損なわれていたり、あるいは経済、健康格差で取り残された方々も気になります。全ての人がハッピーになれるような食育をしていかないといけないなというふうに、今日、委員の皆さんのお話を聞いて改めて感じました。たくさんの貴重なご意見ありがとうございました。